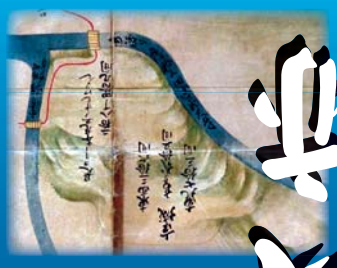
国指定史跡

舘山城跡

～ 戦国期 伊達時代からの山城 ～

垂井から登る
伊達氏からの上杉氏へ



舘山城跡 ～ 戦国期 伊達時代からの山城 ～

舘山城は仙台藩主伊達氏の正史「伊達治家記録」に登場する城館で、米沢市西部の舘山・口田沢地区にある山城を中心とした城館跡を、舘山城跡に比定しています。ここは、古くから伊達氏に関わる山城として知られ、地元で「城山」と呼ばれる場所です。南側の大樽川と北側の小樽川（両者が合流して鬼面川）の２つの河川を堀としたまさに天然の要害です。

「伊達治家記録」では、まず伊達氏家臣新田氏の居城として登場します。その後、伊達輝宗が自身の隠居所として普請を行い、輝宗の死後に伊達政宗が地割・再普請を行った記事があります。

発掘調査では、伊達時代の山城と山麓部にある日常の居住空間である根小屋の様子が徐々に明らかになってきましたが、慶長5年（1600）の関ヶ原合戦後に米沢を本拠とした上杉氏が普請を行った形跡も確認されました。今のところ上杉氏が舘山城の普請を行った記録は無く、発掘調査で明らかになった米沢の新たな歴史の１ページといえます。舘山城跡は、伊達時代と上杉時代という年代の異なる２つの城の姿があることが判明し、中世の山城から近世の城郭へ大きく変貌を遂げようとしていました。

●●●● 史跡の指定理由とその範囲 ●●●●

舘山城跡は、平成28年3月1日付けで国の史跡となりました。伊達氏が勢力を拡大した天正15年～19年（1587～1591）にかけての政治的・軍事的な拠点の１つとなった城館であるとともに、山城と山麓居館跡が良好な状態で残されていること、東北地方南部の有力大名の城館構造だけでなく、中世社会の動向を知るうえで重要であると評価されました。史跡の指定範囲は、山城と根小屋（舘山北館、東館）部分であり、指定面積は63,367.29㎡です。

なお、舘山城の城域は、大樽川・鬼面川を越えてさらに東側へ拡大するとみられ、並松土手と呼ばれる東側に堀を伴う土塁を東端とする広大な城域を形成した時期があったと考えられます。

ここが史跡の見どころ！ ピックアップ!!

① 石垣と破城の痕跡（曲輪Ⅰ西側桝形虎口周辺）

全国的な石垣普請技術との比較から、慶長年間（1596～1615）後半から元和年間（1615～1624）の上杉時代に普請された石垣と考えられます。

発掘調査前は、石垣は多量の川原石に覆われ、その存在は確認できませんでした。桝形虎口周辺に散乱する多量の川原石の正体は、石垣の栗石（裏込め石）で、破城が行われた際に、石垣を壊した名残と考えられます。本来の石垣は、今より高い石積みがあったと想定されます。また、直江兼続の指示で破城が行われたとも解釈できる書状の写しが残されています。

なお、石垣の下には、伊達時代に機能した幅約13m、深さ3.5m以上の堀切が眠っています。

② 土塁と堀切（曲輪Ⅱ西側）

土塁は高さ５m以上と巨大なもので、鉄砲に対する備えの意識が読み取れます。土塁の西側には深さ10m以上の堀切があり、強固な防御施設として機能していました。

曲輪Ⅲ西側の堀切も圧巻です。

舘山城跡をもっと知りたい方へ

●「舘山城跡」ガイドブック　（税込み価格 500 円）
米沢市上杉博物館・市立米沢図書館で販売中。残部僅少！
郵送で購入希望の方は、文化課までお問い合わせ下さい。

●「伊達氏と上杉氏―舘山城跡国史跡指定記念」
平成28年10月1日から11月27日まで上杉博物館において開催された特別展の図録です。　完売

●「舘山城跡 発掘調査報告書」
米沢市埋蔵文化財調査報告書第 107 集　（非売品）
発掘調査成果と関連文献をまとめてあります。
インターネットで見ることができます。

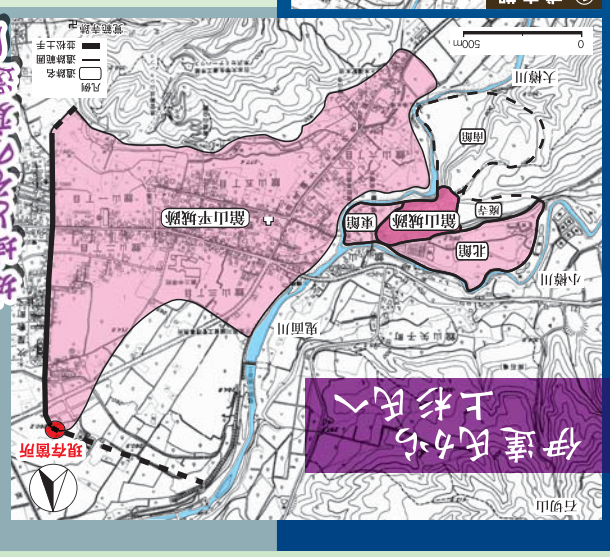
「全国遺跡報告総覧」
http://sitereports.nabunken.go.jp/ja

※上記３冊は市立米沢図書館（ナセＢＡ内）で読むことができます。

舘山城関連年表

文治５年（1189）9月	：新田経衡が舘山城を築城したとの伝承。
天文２年（1533）	：伊達氏家臣、新田遠江守影綱が開基となり、舘山寺を建てる。
天文17年（1548）9月	：伊達晴宗が桑折西山城（福島県桑折町）から米沢城に居城を移す。
永禄10年（1567）8月	：米沢城にて伊達輝宗の嫡男、梵天丸（のちの初代仙台藩主伊達政宗）が誕生。
元亀元年（1570）4月	：新田景綱が子の舘山城主新田四郎義直を捕え、重臣中野宗時・牧野久仲父子の謀反が露見する。中野・牧野は城下に放火するも「御城」は「山上」にあったため無事であった。
天正12年（1584）8月	：伊達政宗が家督を継ぎ、輝宗は隠居、舘山に城を築き隠居所とする。翌年完成。
天正15年（1587）正月	：政宗、舘山の「御地取之絵図」を老臣と見分し、翌月に舘山の地割を行う。※この頃、政宗は舘山へ頻繁に「御出（出かけ）」している。
天正17年（1589）6月	：摺上原の戦いで蘆名氏を破り、黒川城（福島県会津若松市）に入城する。
天正18年（1590）2月	：政宗、片倉藤忍もんに「長井庄おたて山川」で金堀許可、「要害」等に影響の無いように指示。同月、政宗、米沢の留守居役伊達鉄斎に「要害」普請を進めるよう指示。
天正19年（1591）9月	：政宗、豊臣秀吉の命で米沢から岩手沢（宮城県大崎市岩出山）へ移封となる。10月に蒲生郷安が米沢城入城。
慶長３年（1598）２月	：上杉景勝が越後春日山から会津へ移封され、直江兼続が米沢城主となる。
慶長5年（1600）10月	：関ヶ原の戦い
慶長6年（1601）8月	：景勝、減封により120万石から30万石となり、米沢城を居城とする。
慶長14年（1609）２月	：兼続、奉行の平林正恒に「館山之儀一切無用之事」との指示を出す。
元和元年（1615）6月	：一国一城令
明暦元年（1655）7月	：上杉綱勝（米沢藩3代藩主）、遠山愛宕堂を参詣後に「舘山辺之城山」を視察する。
大正9年（1920）1月	：舘山発電所運用開始（施設の完成は大正8年）。
平成28年（2016）3月	：「舘山城跡」が国の史跡に指定。

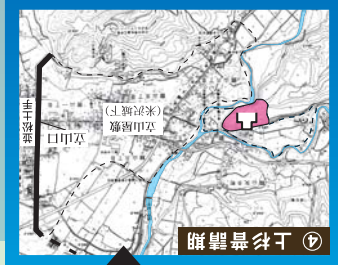
伊達氏から上杉氏へ ～周辺に残る舘山城の変遷～



① 成立期

築城（15世紀後半～16世紀前半）から元亀元年(1570)頃

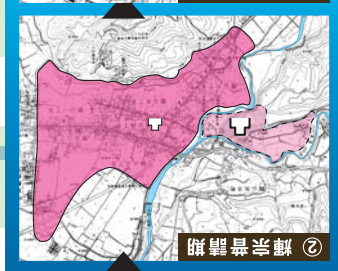
伊達氏家臣新田氏の城館として築城され、根小屋と共に機能する。舘山平城跡の範囲は町場（舘山町）が形成されていたとみられる。



② 輝宗普請期

天正12年（1584）頃

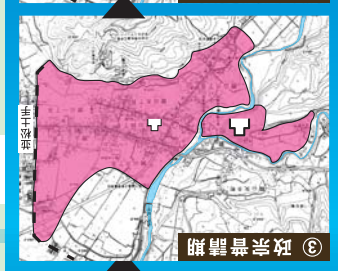
輝宗隠居所（舘山御館？）が舘山平城跡の範囲内に普請される。



③ 政宗普請期

天正15年(1587)～
天正18年(1590)頃

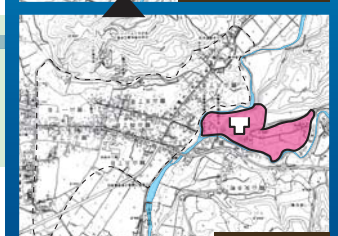
並松土手や要害の普請が行われ、城域が最大になったとみられる。



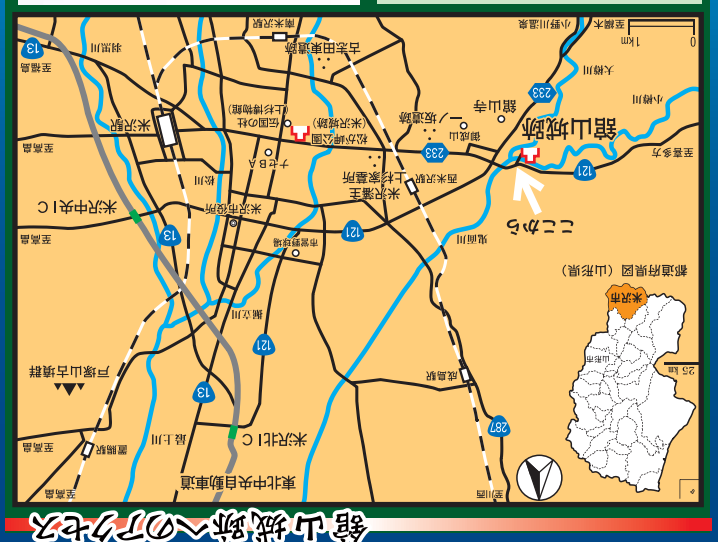
④ 上杉普請期

慶長年間(1596～1615)後半～元和年間(1615～1624)頃

上杉氏によって山城に石垣が普請され、根小屋も機能か。平城は、上杉家臣団の屋敷地となり、米沢城下に組み込まれ舘山城から離脱する。廃城は17世紀前半を想定。



舘山城跡～のアクセス

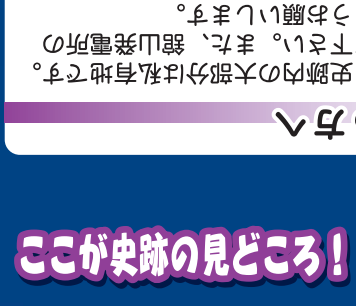


米沢方面からは、この標識を左折してください。
会津若松 62km
121
喜多方 43km
Aizuwakamatsu
Kitakata

新幹線で
山形新幹線つばさで米沢駅下車

自動車で
米沢市街地から国道121号線を喜多方方面へ、舘山発電所が目印です。
・米沢駅から約15分。
・米沢北・中央ICから約15分。
・松が岬公園から約10分。
・道の駅田沢なごみの郷から約10分。

駅から徒歩で
西米沢駅から約40分。



史跡を見学される方へ

○見学は自由にできますが、史跡内の大部分は私有地です。ゴミ・ペットの持ち込みはご遠慮ください。また、舘山発電所の関連施設には近づかないようお願いします。

○斜面などで滑りやすい場所があります。散策される際は足元に注意を払い、けがの無いよう十分お気をつけください。

○野生動物にも注意してください。

－ 編集・発行（第2版）令和２年10月30日 －

山形県米沢市教育委員会　教育管理部文化課
〒992-0012　山形県米沢市金池三丁目1-14
TEL 0238-22-5111（内線7530）
E-mail：bunka-ka@city.yonezawa.yamagata.jp

表紙使用絵図出典
左上：元禄8年（1695）米澤八景「館山晴嵐」（市立米沢図書館蔵）
中央：正保2年（1645）出羽国米沢城下絵図（国立公文書館デジタルアーカイブより引用）